

〈解答〉

- ① 1 イ 2 まだれ
 ② 1 ① ただよ ② 展示 ③ 省 ④ むしょう
 2 ウ
 3 エ
 4 イ

配点 ① 1は2点、他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 「興味を持ちました」を単語に分けると、順に「興味(名詞)」＋「を(助詞)」＋「持ち(動詞)」＋「まし(助動詞)」＋「た(助動詞)」となる。ちなみに文節で分けると「興味を」＋「持ちました」となる。
- 2 「店」と同じく「まだれ」を部首にもつ漢字は、「座」「庫」「康」「床」「度」「底」「広」など多数ある。ちなみに点のない「がんだれ」を部首にもつ漢字には、「厚」「原」などがある。
- ② ① 「漂」には「ただよ(う)」という訓読み以外に、「ヒョウ」という音読みもあり、「漂流」「漂白」などの熟語として用いられる。
- ② 「展示」は「美術品や商品などを並べて一般に公開すること」を表す熟語である。「展」には「ひらく」という意味があり、「展開」「進展」「個展」などの熟語がある。「展」の部分に「ノ」がつかないことに注意する。また、「示」には「ジ・シ」という音読み以外に「しめ(す)」という訓読みがあり、「示談」「揭示」「示唆」などの熟語がある。
- ③ 「省」には「はぶ(く)」という訓読み以外に、「シヨウ・セイ」という音読みもあり、「省略」「反省」などの熟語として用いられる。
- ④ 「無性に」は「むやみに」「やたらに」という意味を持つ副詞で、文中にあるように「無性に恋しい」、あるいは「無性に腹立たしい」などのように用いる。
- 2 二重傍線Aとウの「の」は主格の助詞で、主語と述語の関係を表し、「が」に言い換えられる。アとオは体言の代用としての助詞で、「もの」「こと」に言い換えられる。イは並立を表す助詞で、「か」に言い換えられる。エは連体修飾語を表す助詞で体言(名詞)につく。
- 3 後の文節がすぐ前の文節に補助的な意味を付け加えている関係を「補助の関係」と言い、文節は分かれていても意味としてはつながっているものを指す。具体的には「走つて／いる」「置いて／ある」「吹いて／くる」「感じて／ない」などのように、「くる・いる・ない・ある」などの前の文節が主に「て」「で」で終わる形になっていれば補

助の関係である。

4 「活用の種類」とは、活用形（未然・連用・終止・連体・假定・命令）がどのように変化するかを分類したものであり、二重傍線Cの「感じる」とイ「見る」はともに上一段活用の動詞である。ア「降る」は五段活用の動詞、ウ「答える」は下一段活用の動詞、エ「くる」はカ行変格活用の動詞、オ「挑戦する」はサ行変格活用の動詞である。動詞の活用の種類の見分け方としては、カ行変格活用は「来る」、サ行変格活用は「する」「くする」があり、他の動詞については、語尾に「ない」を付けたときに、直前の音がア段の音になるもの（「書ッかッない」「知ッらッない」など）が五段活用、イ段の音になるもの（「起ッきッない」「信ッじッない」など）が上一段活用、エ段の音になるもの（「負ッけッない」「増ッえッない」など）が下一段活用となる。